まちづくりメールニュース

Vol. 239
(H28. 1. 21)
北海道開発局都市住宅課
まちづくり相談窓口

今号の記事

○ 寄稿　音更町十勝川温泉中心市街地の再生について
○ 寄稿　江別市営住宅の建替と高齢化対策・子育て支援の取組
○ 第４回まちづくりメイヤーズフォーラム
○ 日本都市計画学会北海道支部　都市・地域セミナー
○ 創設３０周年記念「手づくり郷土賞」公開審査会の参加者を募集します！

各項目の○をクリックすると各項目見出しにジャンプします

まちづくりに関して紹介したい地域の取組、配信アドレスの変更等については、
まちづくり相談窓口(メールはこちら)まで
※配信希望は随時受け付けております。

＝寄稿＝　音更町十勝川温泉中心市街地の再生について
～都市再生整備計画事業を活用した官民連携のまちづくり～

【はじめに】

音更町は、十勝平野のほぼ中央にあり、南は十勝川をへだてて帯広市及び幕別町に、北は士幌町、西は鹿追町、芽室町、東は池田町に接しています。十勝川が育んだ広大な大地と美しい自然に恵まれ、日本を代表する穀倉地帯として全道一の人口を有する町に発展しています。

また、北海道遺産「モール温泉」が湧く十勝川温泉を有する町でもあり、北海道・十勝地方を代表する観光地として、全国的に認知されています。

【十勝川温泉の課題】

十勝川温泉は、モール温泉のほか、広大な十勝平野や日高山脈を一望できる十勝が丘展望台、花時計「ハナック」、豊かな自然を活用したアウトドア体験、ひがし北海道冬の８大まつりの一つである「おとふけ十勝川白鳥まつり彩凛華（さいりんか）」など、多様な観光資源を有する温泉地です。しかし、社会経済の悪化により、温泉街中心部の大型ホテルが倒産後廃墟化したほか、大型ホテルの館内完結型経営形態への転換により、温泉街に空き店舗や空地が増加した結果、温泉街を歩く観光客が少なくなり、賑わいのある温泉市街地のイメージとは逆行する寂れた印象の街並みとなりました。観光入込客数は、平成 19 年度の 141 万人をピークに年間ほぼ 130 万人台を維持しているものの、宿泊客延数は平成 8 年度の 70 万泊をピークに減少傾向が続き、平成２４年度には 45 万泊まで落ち込みました。

これらの課題を解決し、温泉街に賑わいと活気を取り戻すため、主要ホテルの若手経営者、音更町十勝川温泉観光協会職員で組織する「十勝川温泉旅館組合活性化委員会」が主体となり、音更町も連携・協力して温泉市街地周辺のグランドデザインの検討を重ね、フットパスコースの整備や統一デザイン誘導案内看板の設置、各種イベントの開催など様々な取り組みを行ってきました。

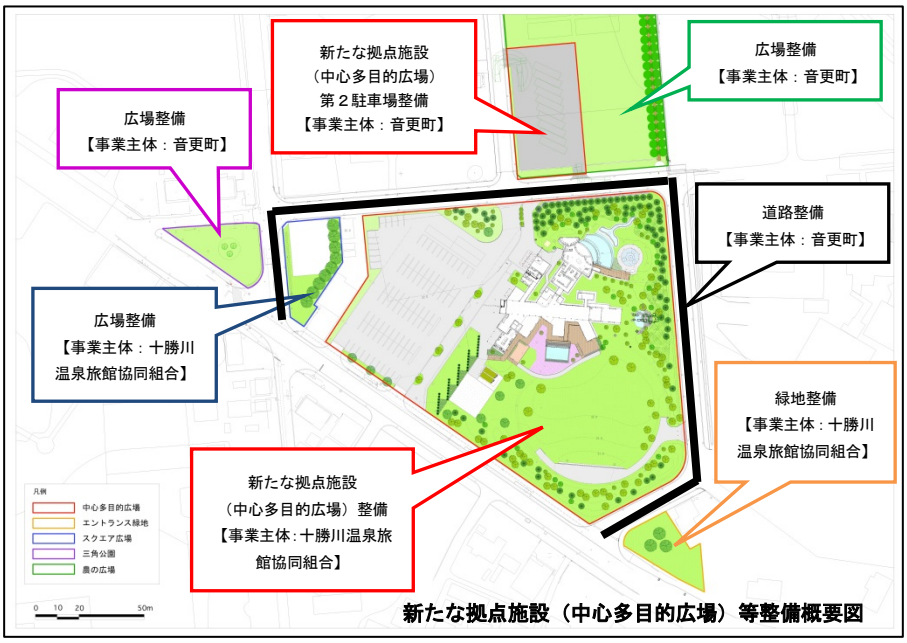
こうした活動と持続的な検討を経た中で、温泉市街地中心部の賑わいと活力を取り戻すため、廃墟ホテルの解体撤去と跡地再整備を柱とする「十勝川温泉中心市街地再生事業」が、官民連携により平成２５年度からスタートしました。

【十勝川温泉中心市街地再生事業の概要】

民間側の事業主体である「十勝川温泉旅館協同組合」は、廃墟ホテルの解体撤去と跡地における新たな拠点施設整備と管理運営を担います。官側の事業主体である音更町は、廃墟ホテル跡地を取り巻く道路整備や周辺町有地における広場整備を担うほか、民間施工事業に対して事業費の一部を補助します。いずれの事業も音更町が策定した「都市再生整備計画」に基づき、国費の補助を受けて実施しています。

ワークショップの様子

新たな拠点施設の整備に当たっては、平成２６年度、十勝川温泉旅館協同組合主催により、観光事業者・農業者・商業者・金融機関・地域住民等によるワークショップが５回開催され、施設内容や利用方法等の検討が行われました。その結果、新たな拠点施設は、屋外芝生広場、多目的ホール、地場産農産物のPRを目的とする市場、モール温泉を活用した水着着用温浴施設・足湯を主体とする「中心多目的広場」として整備することになりました。



新たな拠点施設（中心多目的広場）等整備概要図

【おわりに】

新たな拠点施設は、平成２８年１０月のオープンを予定して整備が進められています。

本事業により、歩いて楽しめる温泉街への環境整備や誰もが繰り返し訪れたくなる魅力ある温泉街づくりを進め、賑わいと活力のある十勝川温泉市街地都市環境の官民一体による形成を目指します。

新たな拠点施設（中心多目的広場）のイメージ図

寄稿者：音更町経済部商工観光課観光係

▲TOP

＝寄稿＝

江別市営住宅の建替と高齢化対策・子育て支援の取組

～家族構成と住宅規模のミスマッチによる住み替え促進～

【はじめに】

江別市は、北海道の中心地・札幌市からＪＲで 20 分、空・海の玄関口である新千歳空港や石狩湾新港にも近い立地にあり、市内には４大学、２短期大学、５高等学校のほか、北海道立総合研究機構食品加工研究センターなどの各種教育研究機関が集積する研究学園都市です。

国内屈指の生産量を誇る江別のれんがは、北海道遺産に登録されており、幻の小麦「ハルユタカ」をはじめとする小麦の産地でもあります。

【新栄団地建替の経緯】

新栄団地は、昭和 37 年から昭和 41 年に建設され、江別市の市営住宅の中でも最も老朽化が進んだ団地であり、入居者の約半数が 65 歳以上の高齢者となっていました。また、浴室が設置されておらず、付近に銭湯などもないことから、入居者は送迎バスや自家用車などで時間をかけて市内の温浴施設を利用しなければならない状態にありました。

一方で中心市街地内にあり、徒歩 10 分圏内に、市役所やＪＲ駅、大型ショッピングセンターがあるなど、恵まれた立地条件にあったことから、同じく中心市街地内にある野幌団地と集約し、現地で建て替えすることが平成 21 年度、「江別市営住宅ストック総合活用計画」に位置づけられました。（現在は「江別市営住宅長寿命化計画」に移行）

平成 27 年 11 月までに住棟 2 棟 96 戸と団地集会所の建設を終え、平成 35 年度までに残りの 4 棟 194 戸を建設する計画です。

新栄団地鳥瞰パース

新栄団地Ｂ棟

【新栄団地の概要】

事業期間	平成 22 年度～平成 35 年度
構造階数	ＲＣ造６・７階建
戸　　数	６棟 290 戸
特　　徴	全戸にユニバーサルデザインを採用 全棟の屋上に太陽光発電設備を設置 外断熱工法を採用 １階の外壁に江別産れんがを使用
附帯施設	団地集会所 外部物置、自転車置場 駐車場、児童遊園

太陽光発電設備（屋上）

【高齢化が進む市営住宅の状況と課題】

市営住宅に暮らす 65 歳以上の高齢者の割合は 36.6％と江別市全体の高齢者割合26.9％を大きく超えており、団地の高齢化により、団地自治会の役員のなり手が不足し、自治会活動も縮小され、地域の中で孤立する単身の高齢者が増加しています。

また、入居する高齢者の中には、子どもの独立や配偶者の他界などにより、入居当初と家族構成が異なりながらも、世帯向けの広い住宅に一人で生活している方もいます。

このような家族構成と住宅規模のミスマッチは、子育て世帯の新たな入居を困難にし、団地の高齢化をさらに進めています。

そのため、市営住宅の建替にあたっては、高齢者の居住の安定を確保しつつ、若い世帯の入居を促進することが求められていました。

【高齢化対策、子育て支援の取組】

・ 単身者向け住宅の拡充

新栄団地建替においては、不足する単身高齢者の受け皿として、総戸数の３割強を単身者向けの 1LDK とし、他の団地においても、これまでの世帯向け住宅の内、比較的床面積が小さい住宅を単身向け住宅とするように規則を改正しています。

・ 入居者募集における子育て世帯枠の設定

新栄団地の世帯向け住宅の新規募集においては、小学生以下の子どもがいる子育て世帯を優先して募集し、他の団地においても募集住宅の半分程度を子育て世帯枠としています。

・ 家族構成に応じた市営住宅への住み替え促進

子育て世帯が入居できる住宅を確保するため、世帯人数が減って住宅規模とのミスマッチが生じたときには、住み替えに応じる旨の承諾書を入居時に提出してもらっています。

また、市の要請で住み替えする方に対しては引越費用等の補助をすることとしています。

・ 団地集会所を利用した多世代交流の促進

子どもたちがのびのびと活動できる空間を確保するため、集会室の間仕切りを可動式とするとともに、子育て支援団体などの集会所使用料を減免するなど、子どもたち、その母親たちと団地やその周辺に暮らす高齢者たちとの多世代交流できる環境づくりを進めています。

団地集会所（新栄会館）

集会室

【おわりに】

少子高齢化の進展が著しい近年の社会情勢にあって、住宅に困窮する方たちに対する市営住宅の役割は益々重要なものとなっています。これからの市営住宅の建替にあたっては、単に老朽化した建物を新しいものに建て替えるのではなく、子どもからお年寄りまで多世代の人々が互いに交流し、快適に暮らしていくためのしくみを作る必要があると考えます。

子どもたちの笑顔と笑い声にあふれ、お年寄りたちがいきいきと暮らせる団地をめざして、これからも市営住宅の環境づくりに取り組んでいきたいと思います。

寄稿者：江別市建設部建築住宅課住宅係主査（市営住宅整備・計画担当）　藤村和憲

「第４回まちづくりメイヤーズフォーラム」
北の住まいるタウン
～誰もが安心して心豊かに暮らせるまちづくりを目指して～

北海道庁と一般財団法人 北海道建設技術センターは、誰もが安心して心豊かに暮らせるまちづくりがさらに広がることを目指し、道内市町長が先進的事例を紹介しながら、専門家などを交えて討論する「まちづくりメイヤーズフォーラム」を開催します。

今年で４回目の開催となるこのフォーラムは、これまでの「コンパクトなまちづくり」と「低炭素化・資源循環」といったテーマに、そこで暮らす人々の生活をどう支えていくかといった「生活を支える取組」を加え、持続可能なまちづくりについて議論を深めます。

また、討論されるテーマは、北海道庁が産学官金連携した協議会にて平成２７年から検討を始めた「北の住まいるタウン」と同一のものであり、本道の人口減少問題などの中長期的に取り組まなければならない様々な地域課題に対応したものです。
（「北の住まいるタウン」については北海道庁ＨＰ参照）

【日時】平成２８年２月１０日（水）　１３：３０～１６：２０

【場所】かでる２・７（北海道立道民活動センター）かでるホール　（参加無料）
札幌市中央区北２条西７丁目

【次第】
基調講演「地域の生活を支える新エネルギーの活用とコンパクトシティ」
北海道大学大学院工学研究院　教授　瀬戸口　剛　氏

特別講演「人と人が結びつき盛り上がっているある連合町内会の仕掛け」
～ 一人ではできないから、協力者を増やす要諦とは ～
北星学園大学　教授　岡田　直人　氏

メイヤーズパネルディスカッション
「誰もが安心して心豊かに暮らせるまちづくりを目指して」
まちづくり事例紹介　１．室蘭市　２．沼田町

パネリスト	室蘭市長	青山　剛　氏
	沼田町長	金平　嘉則　氏
コメンテーター	北星学園大学　教授	岡田　直人　氏
	（株）日本総合研究所	前田　直之　氏
コーディネーター	北海道大学大学院 教授	瀬戸口　剛　氏

【申込期限】　平成２８年２月１日（月）

申込み方法等の詳細は、北海道庁ＨＰをご覧ください。

日本都市計画学会北海道支部　都市・地域セミナー

ガーデンツーリズムによる観光とまちづくりの可能性

公益社団法人 日本都市計画学会北海道支部は、２月２６日、札幌市内で、今年度２回目となる都市・地域セミナーを開催します。

近年、北海道のガーデン見学を目的とした観光客が増えています。これは、北海道特有の美しく豊かな自然と魅力ある庭園を融合させた各地域の取組が大きな影響を与えていると思われます。

今回のセミナーでは、北海道ガーデンショーのディレクターを務めた高野ランドスケーププラニング㈱取締役会長の高野文彰氏を講師としてお招きし、「ガーデンツーリズムによる観光とまちづくりの可能性」をテーマに講演。北海道ガーデンショーの概要と地域への波及効果、国内外の事例について報告していただき、ガーデンツーリズムによる観光とまちづくりの可能性について考えていきます。

参加は、会員以外でも申込みが可能。申込み締め切りは２月２２日まで。
詳しくは、日本都市計画学会北海道支部ＨＰをご覧ください。

日　　時　：　平成 28 年 2 月 26 日（金）18：00～19：40

場　　所　：　TKP 札幌カンファレンスセンター　カンファレンスルーム 6B
札幌市中央区北３条西３丁目１−６　札幌小暮ビル 6 階

講　　演　：　ガーデンツーリズムによる観光とまちづくりの可能性

高野 文彰 氏　高野ランドスケーププランニング（株）取締役会長
IFLA Japan（国際ランドスケープアーキテクト連盟）日本会長

※後半は会場の方々との意見交換を予定しています

参加費　：　無　料

高野　文彰（たかの　ふみあき）氏のプロフィール

1966 年 北海道大学農学部卒業、1971 年 ジョージア大学環境デザイン学部大学院修了。1990 年 東京より活動の拠点を音更に移し、日本を代表するランドスケープアーキテクトとして活躍されるとともに、北海道に根ざしたガーデンムーブメントの推進に尽力されています。2012 年に『十勝千年の森』で開催された第 1 回北海道ガーデンショーを企画し、ディレクターを務められました。このガーデンショーには 20 万人を超える来園者があり、地域への経済波及効果が 30 億円を越えました。第 2 回は 2015 年に『大雪森のガーデン』を中心に開催され、名誉ディレクターを務められています。第 2 回の広域圏の経済効果は第 1 回を上回る 59 億円となりました。

創設30周年記念「手づくり郷土賞」公開審査会の参加者を募集します！

国土交通省は、優れた地域活動を選定・表彰する「手づくり郷土賞」の創設３０周年を記念し、平成２７年度第１回選定委員会で選出された一般部門の応募者 29 団体を一堂に会した公開審査会を、２月２０日、東京都内で開催。これにあわせて公開審査会への参加者を募集します。

「手づくり郷土賞」とは、地域の魅力や個性を創出しているインフラ及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を発掘し、各地で行われている個性的で魅力ある地域づくりを応援するため、国土交通大臣が表彰する制度で、昭和６１年度から実施しています。

公開審査会では、各活動を紹介しながら選定委員と参加者がインフラを通じた「手づくり」と「郷土」について討論し、「手づくり郷土賞（一般部門）」を決定します。選考過程は全て公開され、また会場参加者も意見を述べることができます。地域づくりに取り組む活動団体、地方公共団体や個人のみなさまの参加をお待ちしています。

〇北海道内からの選出団体（一般部門）

①埋もれていた町の鉄道がよみがえる（寿都郡寿都町）：**（一社）寿都観光物産協会**
②皆でつくろう！手作り魚道ー魚がのぼり、笑顔ひろがるー（網走郡美幌町）：**駒追川に魚道を作る会**
③流氷を活かすオホーツク流儀のおもてなし活動（斜里郡斜里町）：**しれとこ・ウトロフォーラム２１**

① 地元住民によるガイド

②魚道の完成を喜ぶメンバー

③住民が雪壁を除雪

〇公開審査会の概要（一般部門）

日　　時：平成２８年２月２０日（土）（１０時開会、１７時閉会予定）
場　　所：東京工業大学 大岡山キャンパス西９号館ディジタル多目的ホール
　　東京都目黒区大岡山２丁目１２－１
実施内容：①第１回選定委員会にて選出された応募者による活動発表
　　②選定委員との公開討論
備　　考：入場無料（定員 150 名・要事前申込み、定員になり次第、締め切り）
　　申し込み締め切りは２月１７日（水）

公開審査会へ参加を希望される方は、申込様式に必要事項を記載の上、電子メール又はファックスにてお申込みください。（先着順）申込様式は国土交通省ＨＰから入手することができます。

また、第 30 回手づくり郷土賞 Facebook ページを開設しました。公開審査会に選出された応募者紹介など、Facebook ページを通じて幅広く情報発信しています。

〈第 30 回手づくり郷土賞 Facebook ページＵＲＬ〉
https://www.facebook.com/mlit.tedukuri/　又は　手づくり郷土賞　で　検索

〇過去の受賞内容

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/tedukuri/former_list/former_list.html

〇お問い合わせ先

北海道開発局開発監理部開発調整課　担当：坂田　TEL011-709-2311（内線 5473）